

日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031 2011年
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com 3月18日

日本原水協は18日、「福島第一原発事故のこれ以上の悪化を防ぎ、地震、津波、原発事故の被災者、避難者の救援に全力を」との安井正和事務局長談話を発表しました。

談話は、3月11日の東日本大地震と津波の被害に続き、福島第一原発が6つの原子炉のうち1号炉、2号炉、3号炉で核燃料の一部が炉心溶融に至り、あるいは至っている可能性が高く、3号炉、4号炉では使用済み燃料貯蔵プール水温が上昇・蒸発し、燃料棒が露出するなど、予断を許さない事態が続いており、5号炉、6号炉でも使用済み燃料プールの温度上昇が伝えられていると指摘。

広島・長崎の被爆を原点に、核の惨禍を防ぎ、核兵器全面禁止を求めてきた団体として現在の事態を深く憂慮しており、日本政府に対して、日本国民を放射能の惨禍にさらす現在の危機を回避するために全力を尽くすこと、あわせて地震、津波、原発被害の被災者の救援に、国民的な英知と力を結集すること、そのために緊急要求をしています。(全文はブログをご覧ください→<http://www.antiatom.org/Gpress/?p=2940>)

救援募金へのご協力

ありがとうございます。

宮崎県原水協から3万円、長野県原水協から2万円、北海道札幌市の日下新介さん
(3月18日現在)

緊急救援 募金行動

に取り組みます!

日時: 3月19日(土)

12:30~13:30

場所: JR御茶ノ水駅・御茶ノ水橋口改札前

6・9行動の一環として署名も集めます。

ぜひご参加ください。

必要な薬無料で避難所に

東日本大震災とその直後に発生した東電福島原発事故から1週間。福島市内の避難所で巡回医療に取り組み医療生協わたり病院の医師で、放射線医学に詳しい齋藤紀(おさむ)さんに、大震災と原発事故の二重の被害に遭った被災者の現状について聞きました。

(山本眞直)

福島 齋藤紀・わたり病院医師に聞く

福島原発の爆発・放射能漏れ事故は、原発事故の危険性ととも



に、広い範囲で被災者に避難を強いているという意味で深刻です。今の放射線レベルです。今、政府と自治体

略歴 1947年宮城県生まれ。福島県立医科大学医学部卒、広島大学原爆放射線医学研究所、総合病院福島生協病院院長(広島市)などを歴任、被爆医療に積極的に取り組んでいます。

を移されている住民もいます。暖房や食料も最小限の状態、直接的な苦痛が蓄積されています。住民避難の意義は否定しませんが、住民に避難を求めた政府や自治体はその具体的苦痛を認識するべきです。被災者の健康に関して特徴的な問題は、体調を崩している人、持病をもっている人の服薬をどう継続するかということ、いつそう明らかになるかです。医療機関がどこにあるかもわからず、ガソリンもない被災者は服薬を中断せざるを得ません。

避難して1週間になれば手持ちの薬が切れ、携えて、必要な薬を避難所に無料で届けるといふ行政的指示がどうしても必要です。これが現場をまわっての私の痛切な結論です。今回の東電事故で問われるのは、原発中心のエネルギー政策です。方向転換すべきという結論が下された、人権無視の下請け労働が底辺を支えていることも、いっそう明らかになるべきです。JCOC臨界事故(茨城県東海村)も含め、原発事故の深刻な犠牲者は常にこの人々だからです。

▲日本原水協代表理事の齋藤紀さん(福島・わたり病院医師)の話(3月18日付しんぶん赤旗)